

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19310152

研究課題名（和文） 近現代中国におけるリベラリズム思想の受容と展開

研究課題名（英文） Liberalism in modern and contemporary China

研究代表者

村田 雄二郎（MURATA YUJIRO）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：70190923

研究成果の概要（和文）：20世紀の中国史は、ナショナリズムや社会主義に加えて自由主義を受容した歴史でもあった。本研究は、自由主義の視点から、新たな中国近現代史像を提示した。その具体的な成果は『リベラリズムの中国』（有志舎、2011年）である。

研究成果の概要（英文）：China had accepted nationalism, socialism and liberalism in 20<sup>th</sup> century. This study proposes to present a new image of modern and contemporary China from the perspective of liberalism. Our academic achievement is *China in Liberalism* (Tokyo: Yuushisha, 2011).

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成19年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
平成20年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
平成21年度	3,300,000	990,000	4,290,000
平成22年度	1,200,000	360,000	1,560,000
総計	12,500,000	3,750,000	16,250,000

研究分野：中国近現代思想史

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：自由主義、憲政、立憲、民主主義、中国、近現代

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 第一の背景は、中国の「自由」や「リベラリズム」に対する以下のようなステレオタイプを再検討することであった。

①自由の概念やリベラリズムを西洋由来の思想と見なし、中国におけるその「欠如」・「排除」や「挫折」・「歪曲」を指摘しようとするもの。この場合、近代リベラリズムに目覚めた「先駆的」「開明的」知識人の孤立や権力による抑圧が重視される。

②中国の歴史には独自の価値と発展パターンがあり、西洋的バイアスを排して、内在的・共感的立場から、「自由」な「主体」形成の特質が見出されなければならないというもの。この見方では、中国の歴史や思想に

おける異・西洋的な個性に関心がはらわれ、いわば総体的な「文明」の視座から「近代」「西洋」の諸価値が相対化される。

(2) 第二の背景は、上記二つのステレオタイプを脱しつつ、中国近現代史に確かに存在していた「自由の価値や政治的自由の実現を目指す真摯でたゆまぬ潮流」を位置づけ直すことであった。つまり、この潮流にかかわる思想や運動が民族主義や社会主義の力によって排除あるいは周辺化され、思想自体の「変容」を余儀なくされたとはいえ、これまでさほど注目を集めてこなかったリベラリズムという光源を用いることで中国近現代史を再照射し、それによって「民族革命」とも「社会主義近代化」とも違う新たな歴史像

と中国イメージを構築したいとの動機に支えられていた。

(3) 第三の背景は、近現代中国のリベラリズム思想に着目しつつあった中国や台湾の研究者と連携を深めて、日本の中国研究を世界に向けて発信することであった。

## 2. 研究の目的

(1) 中国近現代史研究において重要な問題圏を成すリベラリズムの歴史遺産を、現代中国における今日的関心から多面的に読み込むこと。

(2) その際に、「自由と統制」・「公と私」・「ナショナリズムと民主主義」など現代社会にとって重要な諸問題をリベラリズム研究の中に置き直し、国家権力によって形成を期待される「官製リベラリズム」や経済活動の自由とメディアの市場化によって出現する「商業リベラリズム」などを複合的に考察すること。

(3) これらの作業を通じて、中国思想史・中華民国史・東アジア国際関係史などの領域に新たな問題提起をおこない、ひいては日本の中国研究を活性化させ、国際化させていくこと。

(4) 同時に、大学や国境を超えた研究者の連携と若手後継者の育成をおこなうこと。

## 3. 研究の方法

(1) 近現代中国におけるリベラリズムの多様な政治的・経済的・思想的あらわれを、歴史の文脈に即して掘り起こす。と同時に、「自由と統制」をはじめとする普遍的な課題を、世界との共時性を意識しながら、近現代中国において再検討する。換言すれば、時間軸と空間軸を交差させることで、現代中国のハイブリッド（異種混濁的）な思想的文化的状況を紐解く、ということである。

(2) 近現代中国におけるリベラリズムの思想や哲学を次の①～③の視角から総合的に分析する。

①中国の伝統思想と西洋の近代思想との関連性を哲学・学術史の方法論を用いて再検討することにより、中国的なリベラリズムと普遍的なリベラリズムとの境界を再考察する。

②近現代中国のリベラリズムを個別の政治過程と制度化の試みの中で考察することで、どこまでが「官製リベラリズム」で、どこからが「官製リベラリズム」でないのかを明らかにする。

③一部の知識人や官僚・政治家が抱くリベラルな価値を、メディアや法制、教育機関といった政治的・経済的・社会的文脈において幅広く捉え直し、「商業リベラリズム」の一端

およびそれと「官製リベラリズム」との結びつきを明らかにする。と同時に、「商業リベラリズム」とも「官製リベラリズム」とも違う、普遍的なリベラリズムの様相も浮かび上がらせる。その際に、国際的な広がりの中で検討していく。

(3) 上記(1)(2)を個別具体的に検討するために研究会を定期的に開催し、海外の研究者とワークショップやシンポジウムを企画する。

### 【実績】

・定例研究会:14回

・国際ワークショップ:1回

「近代中国思想史上的自由主義」(復旦大学、2008年9月14日)

・国際シンポジウム:1回

「中国近現代の自由主義」(東京大学、2009年10月4日)

※詳細は村田雄二郎編『リベラリズムの中国』(有志舎、2011年刊行予定)の「附録 研究会と討論の記録」を参照のこと。

## 4. 研究成果

(1) 本研究活動の初歩的な成果(予備的研究も含む)は、『中国——社会と文化』(22・23号、2007・2008年)の小特集「近現代中国と東アジアの公共性——自由と統合をめぐる」である。この小特集で解明されたことは、次の3点である。

①近代中国においてはナショナリズムとリベラリズムが二者択一の関係ではなく、相関的・補完的關係にあったこと(水羽論文)。

②近現代中国のリベラリズムを制度的かつ社会的に支えていたメディア界の活動——とりわけ翻訳活動——は国際条約体制にも規定されていたこと(中村論文)。

③近代中国のリベラリズムが生成される場としての教育・学術体制は政治性を帯びつつも、その政治性が必ずしも社会の隅々まで貫徹されていなかったこと(大澤論文、竹元論文)。

(2) 本研究活動の中間的な成果は、『近きに在りて』(54号、2008年)の特集「近現代中国のリベラリズム」である。この小特集は関連する研究書を書評形式で紹介すると同時に、次の2点を重点的に解明した。

①中央の政治レベルもしくは思想・学術のレベルで受容された自由論が実際のところ地方レベルでどのように実践されたのか(山本論文)。

②近現代中国のリベラリズムと立憲主義の補完ないしは相克の關係性を憲法学の理論を援用することで読み解いた(石塚論文)。

(3) 本研究活動の最終的な成果は、村田雄二郎編『リベラリズムの中国』(有志舎、2011

年予定)である。この論文集は、「メディア・学術と自由の空間」・「個人・社会と自由の学理」・「国際関係の中の憲政と自由」・「政党国家と自由主義」の4部から構成され、「2. 研究目的」と「3. 研究の方法」で記した内容に全面的に応えたものである。これは以下の章構成からも明らかであろう。

<メディア・学術と自由の空間>

- ・第1章「公共輿論」(章清)
- ・第2章「清末の言論自由と新聞」(村田雄二郎)
- ・第3章「どのような理想の国民をつくりあげるのか」(孫青)
- ・第4章「学術と自由」(竹元規人)

<個人・社会と自由の学理>

- ・第5章「自由と功利」(川尻文彦)
- ・第6章「清末における自由の条件」(梁一模)
- ・第7章「自由、自治そして歴史」(楊貞徳)
- ・第8章「政治学教科書の中の『自由主義』」(孫宏雲)

<国際関係の中の憲政と自由>

- ・第9章「租界の慣習と日本の制度」(孫慧敏)
- ・第10章「1920年代の世界と中国の国家主義」(小野寺史郎)
- ・第11章「世界の憲政潮流と中華民国憲法」(中村元哉)

<政党国家と自由主義>

- ・第12章「個人・社会・大衆・党」(王奇生)
- ・第13章「1930年代中国における政治変動と政治学者」(水羽信男)
- ・第14章「知識人と政治体制の民主的変革」(金子肇)
- ・第15章「戦後中国の経済自由主義」(久保亨)

(4) 以上の研究活動と研究成果を通じて、「民族革命」とも「社会主義近代化」とも違う新たな中国近現代史像と現代中国イメージを構築した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 17 件)

① 中村元哉、「国民党的新聞自由論与民権思想——從 20 世紀 40 年代国際情勢来分析」、張憲文ほか編『大同道路——孫中山研究』南京出版社、2010 年、560-570 頁、査読有

② 小野寺史郎、「梁啓超と「民族主義」」、『東方学報』第 85 冊、2010 年、511-532 頁、査

読有

③ 小野寺史郎、「地方史研究と王清穆日記」、高田幸男・大澤肇編著『新史料からみる中国現代史——口述・電子化・地方文献』東方書店、2010 年、219-247 頁、査読無

④ 竹元規人、「1930 年前後中国關於“学術自由”、“学術社会”的思想与制度」、『学術研究』2010 年 3 期、14-25 頁、査読有

⑤ 水羽信男、「抗戦時期的自由主義——以王韞愚为中心」、『学術研究』2010 年 3 期、26-30 頁、査読有

⑥ 川尻文彦、「第九章 近現代」、湯浅邦弘編『概説中国思想史』ミネルヴァ書房、2010 年、189-209 頁、査読有

⑦ 川尻文彦、「梁啓超の政治学——明治日本の国家学とブルンチュリの受容を中心に」、『中国哲学研究』第 24 号、東京大学中国哲学研究室、2009 年、74-93 頁、査読有

⑧ 川尻文彦、「陶行知とデューイの訪中——民国初期中国教育史の一側面」、森時彦編『20 世紀中国の社会システム』京都大学人文科学研究所、2009、431-457 頁、査読有

⑨ 孔祥吉・村田雄二郎、「京師白雲觀与晚清外交」、『社会科学研究』、2009 年、159-164 頁、査読有

⑩ 水羽信男、「リベラリズムとナショナリズム」飯島渉・久保亨・村田雄二郎編『シリーズ 20 世紀中国史 (第 3 卷)』東京大学出版会、2009 年、103-122 頁、査読有

⑪ 中村元哉、「言論・出版の自由」、飯島渉・久保亨・村田雄二郎編『シリーズ 20 世紀中国史 (第 3 卷)』東京大学出版会、2009 年、123-144 頁、査読有

⑫ 久保亨、「全球化の奔流と主体としての中国」、飯島渉・久保亨・村田雄二郎共編『シリーズ 20 世紀中国史 (第 3 卷)』東京大学出版会、2009 年、1-12 頁

⑬ 久保亨、「從戦時經濟到戦後經濟的轉換：嘗試与挫折」、中国社会科学院近代史研究所民国史研究室ほか編『一九四〇年代的中国』社会科学文献出版社、2009 年、上巻 443-453 頁、査読有

⑭ 村田雄二郎、「清末の言論自由と新聞——天津『国聞報』の場合」、『近きに在りて』第 54 号、2008 年、2-16 頁、査読無

⑮川尻文彦、「清末の「自由」、『中国学志』  
剥号、2008年、1-33頁、査読有

⑯川尻文彦、「近代中国における「文明」—  
—明治日本の学術と梁啓超」、鈴木貞美・劉  
建輝編『東アジア近代における概念と知の再  
編成』国際日本文化研究センター、2008年、  
131-160頁、査読有

⑰竹元規人、「中央研究院第一次院士選挙(一  
九四八年)の構造——第二屆評議會評議員選  
挙との比較のもとで」、『中国——社会と文  
化』第23号、2008年、175-193頁、査読有

〔学会発表〕(計8件)

①小野寺史郎、「大清臣民与民国公民之  
間?——以新政時期万寿聖節為中心的探討」、  
“辛亥革命与清末民初的社会与政治”工  
作房、2010年12月19-20日、華東師範大学  
歴史系

②小野寺史郎、「大清臣民與民國公民之間?  
——以新政時期萬壽聖節為中心的探討」、「身  
體、權力與認同」國際學術研討會、2010年  
12月11-12日、國立政治大學身體與文明研究  
中心

③村田雄二郎、「清末立憲運動における日中関  
係——張謇を中心に」、「從近現代日中文化交  
流看現代性及身份認同的探索」國際シンポジ  
ウム、2010年11月13-14日、香港中文大学

④中村元哉、「近代中国憲法史上的自由与国  
家主義——張知本的憲法論与中華民國憲法の  
制定過程——」、第六次中華民國史國際學術討  
論会、2010年8月21日、南京大学

⑤久保亨、「民国末期經濟自由主義的發展趨  
向」、第六次中華民國史國際學術討論会、2010  
年8月21日、南京大学

⑥竹元規人、「“激進与保守”的对立結構与  
1920年代疑古史学」、第三屆中国近代思想史  
國際學術研討会、2010年8月17日、洛陽師  
範学院

⑦水羽信男、「中国留学生与1920年代的東京  
——以施存統为中心」、四川大学・広島大学  
“近代中国与日本”學術研討会、2008年9月  
28日、四川大学

⑧竹元規人、「1930年前後中国關於“学術自  
由”、“学術社会”的思想与制度」、「近代中国  
思想史上的自由主義」國際學術研討会、2008  
年9月14日、復旦大学

〔図書〕(計8件)

①小野寺史郎『国旗・国歌・国慶——ナショ  
ナリズムとシンボルの中国近代史』東京大学  
出版会、2011年、363頁

②久保亨、『シリーズ中国近現代史④ 社会  
主義への挑戦』岩波書店、2011年、209頁

③中村元哉・石塚迅・山本真編著『憲政と近  
現代中国——国家、社会、個人——』現代人文  
社、2010年、186頁

④村田雄二郎責任編集『新編 原典中国近代  
思想史 第3巻 民族と国家——辛亥革命』  
岩波書店、2010年、361頁

⑤村田雄二郎責任編集『新編 原典中国近代  
思想史 第2巻 万国公法の時代——洋務・  
変法運動』岩波書店、2010年、351頁

⑥飯島渉・久保亨・村田雄二郎共編、『シリ  
ーズ20世紀中国史』全4巻、東京大学出版  
会、2009年、232頁+232頁+230頁+254頁

⑦久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士共  
著、『現代中国の歴史——兩岸三地100年の  
あゆみ』東京大学出版会、2008年、288頁

⑧水羽信男、『中国近代のリベラリズム』東  
方書店、2007年、224頁

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

村田 雄二郎 (MURATA YUJIRO)  
東京大学・大学院・総合文化研究科・教  
授

研究者番号：70190923

### (2) 研究分担者

久保 亨 (KUBO TORU)  
信州大学・人文学部・教授

研究者番号：10143520

水羽 信男 (MIZUHA NOBUO)

広島大学・大学院・総合科学研究科・教  
授

研究者番号：50229712

川尻 文彦 (KAWAJIRI FUMIHIKO)

帝塚山学院大学・人間科学部・准教授

研究者番号：20299001

中村 元哉 (NAKAMURA MOTOYA)

南山大学・外国語学部・准教授

研究者番号：80454403

小野寺 史郎 (ONODERA SHIRO)

京都大学・人文科学研究所・助教

研究者番号：40511689

竹元 規人 (TAKEMOTO NORIHITO)

福岡教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：80452704

(3)連携研究者

( )

研究者番号：